

議会改革特別委員会（第21回）

日 時	平成28年10月17日（月）午後1時30分から
場 所	第1議会委員会室
出席委員	全員
欠席委員	なし
協議事項	1 議会による事業評価の反省及び今後のスケジュールについて 2 今後の取り組みについて 3 その他

概 要

1 議会による事業評価の反省及び今後のスケジュールについて

<議会による事業評価の反省>

- ・ 抽出事業数を欲張りすぎた。もっと絞り込んだほうがよい。
- ・ それぞれ考えが異なる者同士が議論することで、大変勉強になった。
- ・ 分科会では、自分が抽出した事業以外の事業については、問題意識や視点の違いから審議することが難しかった。また、絞り込みも難しかった。
- ・ 初めてだったので、抽出、絞り込み、評価ともにたいへんだったように思うが、慣れてくると大丈夫なのでは。
- ・ 自分の思いとみんなの思いのすり合わせが難しい。けれども、議会として提言するのだから、自分の思いと違う部分については受け入れた。
- ・ 机上での審議だけではなく、絞り込んだ事業について現地調査を行うなど、突っ込んだ取り組みがしたかった。それを行うには、調査対象事業数を少なくして取り組まないとならない。
- ・ 執行部の予算編成のスケジュールに合わせた日程ではなく、じっくりと取り組む日程で臨みたい。そのためには絞り込む事業数も考えないといけない。
- ・ 新規事業が予算に上がる前に、いかにチェックしていくかが課題。しかし、表に出る前の段階で議会に知らせるということは、議案の事前審査にひっかかってくる。
- ・ 提言が予算に反映されているかどうか、予算が決定する前にチェックしたい。

- ・ 何から何まで欲張ってもできない。年間を通じて自分で調査することもできる。中身を濃くすることが大事。
- ・ 予算案ができる前の働きかけは議案の事前審査になりかねない。それよりも調査研究して厚みを持たせて提言するほうが大事。しかし、重要な事業や予算については、事前に情報をもらわないと理解も検討も進められないということも事実。
- ・ 言うだけではだめ。修正案をも辞さないくらいの気概を持って取り組まないといけない。議員が言うことだから何でも対応してくれというのはどうかと思う。
- ・ 外から見て批判しただけと言われてしまうのは残念。執行部案ひっくり返すくらい勉強しないといけない。思い付きではなく段階を踏んで固めてきたことを執行部には理解してほしい。それはそれで執行部のスタンスは変わらないということではなく、受け止める柔軟性を持ってほしい。
- ・ 新規事業についても、新年度予算や補正予算として挙がってくる前にある程度の情報がほしい。でないと審議ができない。
- ・ 予算決算特別委員会のテリトリーまで踏み込む必要はない。この委員会で話し合うべき範囲を踏まえ、この委員会から予算決算特別委員会に提案するかたちをとるのがよい。

2 今後の取り組みについて

<政務活動費の領収書開示について>

- ・ 現在、ホームページでは収支計算書を公開している。領収書については、情報公開請求に基づいて手続きしていただくことになる。
- ・ あわせて食費や宿泊費のガイドラインについてもはっきり決めてはどうか。職員の旅費規程に準ずるとしてはいるが、明確にしておく必要がある。

→ 今後の検討課題